

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書		科学と人間生活（数研出版）							
補助教材等									

1 学習の到達目標

自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりの理解を深める。観察・実験の技術を身に付け人間生活を科学的に探究できる力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業の欠席をしないようにすること。
- 前向きに授業に取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 ・実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。	・自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。	・自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。
主な評価方法	◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト	◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト	○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4					
	5					
	6					
二 学 期	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
三 学 期	12	物質の科学	教科書	35	材料とその利用 衣料と食品	一般的な金属やプラスチック、繊維の性質について理解する。(a) それぞれの用途について、その特徴と関連付けて説明できる。(b) 身近な製品を環境問題と結び付け理解しようとしている。(c) 光の性質や熱運動について理解する。(a) 学習したことから身のまわりの現象を説明できる。(b) 日常生活や身近な現象に結び付け理解しようとしている。(c)
	1					
	2	光や熱の科学			光の性質とその利用 熱の性質とその利用	
	3					

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		高等学校 化学基礎（数研出版）							
補助教材等		リードLight ノート化学基礎（数研出版）							

1 学習の到達目標

日常生活や社会生活との関連をはかり物質の変化への関心を高め、観察や実験を行い、化学的な探求能力と態度を育成する。基本的概念、原理・諸法則を理解させ化学的な見方・考え方を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業の欠席をしないようにすること。
- 前向きに授業に取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・日常生活や社会生活との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な考え方や、原理、法則を理解している。 ・実験、観察の基本操作や記録などの技能が身についている	・物質とその変化から疑問を持ち、観察、実験を行い、その結果を自分の言葉で表現している。	・日常生活にある物質の変化に主体的に関わり、自分の考えとあわせて探求しようとしている。
主な評価方法	◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト	◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト	○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	物質の構成	教科書 補助教材	30	純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	原子の構成粒子について理 解している。(a)
	5	物 質 の 構 成 粒子			原子とその構造 イオン 周期表	原子の電子配置からイオン になりやすさ、周期表との 関連について考えることが できる。(b)
	6	粒子の結合			イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 金属結合と金属結晶	身のまわりにある物質を、 粒子の結合の視点から興味 を持って見ることができ る。(c)
二 学 期	7	物質と 化学反応式	教科書 補助教材	40	原子量・分子量・式量	1mol の量を示したり、実際
	8				物質と 溶液の濃度	の物質の量を mol 数で表す ことができる。(a)
	9	酸と塩基の 反応			化学反応式と物質と 酸・塩基	化学反応式の係数から、物 質の量的変化を質量や体積
	10				水素イオン濃度と pH 中和反応と塩 中和滴定	変化でとらえることができ る。(b)
	11	酸化還元 反応			酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応	身近にある酸や塩基、酸化 還元反応を利用したものに 興味をもつ。(c)
三 学 期	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		高等学校 科学と人間生活（第一学習社）							
補助教材等									

1 学習の到達目標

科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解し、科学に対する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業の欠席をしないようにすること。
- 前向きに授業に取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 ・実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。	・自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。	・自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。
主な評価方法	◎定期考査 ○実験レポート ◎小テスト	◎定期考査 ◎実験レポート ○小テスト	○実験レポート ◎自己評価 ◎出欠席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4					
	5					
	6					
二 学 期	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
三 学 期	12	生命の科学	教科書		ヒトの生命現象 微生物とその利用	タンパク質やDNAの構造やはたらき、 発酵および発酵食品について理解して いる (a)
	1					免疫についての学習からアレルギーや 予防接種について説明できる (b)
	2	地球や宇宙 の科学		35	自然景観と自然災害 太陽と地球	学習内容を日常生活や健康管理に結び 付け理解しようとしている (c)
	3					地球の内部構造や天体の運動の周期性 について理解している (a)

温室効果のしくみから地球温暖化問題
について考察できる (b)

プレートの分布と地震や火山の活動に
ついて理解しようとしている (c)

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書		高等学校 新物理基礎(第一学習社)							
補助教材等		ネオパルノート物理基礎(第一学習社)							

1 学習の到達目標

日常生活や社会生活と関連をはかり物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、観察、実験をおこない、物理学的に探求する能力と態度を育てる。基本的概念、原理・諸法則を理解させ科学的な見方・考え方を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 授業に遅れたり休んだりしないこと。
- きちんとノートをとること。
- 居眠り、教科と異なる読書、ゲームなどしないこと。
- 復習をすること。特に問題演習を行うこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・自然の事物、現象について、基本的な概念や原理、法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	・自然の事物、現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・自然の事物、現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
主な評価方法	◎定期考査 ○課題の提出	◎定期考査 ◎課題の提出	○課題の提出 ◎出席状況、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	物体の運動	教科書 補助教材	30	等速直線運動	各運動の式を用いて、それぞれの物理量を計算できる。(a) グラフからそれぞれの物理量を読み取れる。(b) 身の回りの物体の運動を理解しようとする。(c)
	5	力と運動の法則			等加速度直線運動	
	6	仕事と力学的エネルギー			運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー 熱量の保存	
二 学 期	7	波の性質	教科書 補助教材	40	波の表し方	波や電気の基本的な要素に成り立つ関係を式で表せる。(a) 弦や気柱、直列や並列などの実際のケースに応用させることができる。(b) 身の回りの現象と結び付けて波や電気の特徴を理解しようとする。(c)
	8	音波			波の重ね合わせ	
	9	電荷と電流			音の性質 固有振動 電荷	
	10	電流と磁場			電流と電気抵抗 磁場	
三 学 期	11	エネルギーとその利用			交流の発生 太陽エネルギーの利用 原子核と放射線	
	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間